
学 校 教 育

- 1 小中学校現況
 - 2 当別町学力向上プラン
 - 3 小中一貫教育
 - 4 学校給食
 - 5 保護者支援制度
-

➤ 1 小中学校現況

1 児童生徒・教職員数及び施設の概況

区分 学校名		学級数 (学級)		児童生徒数 (人)								教職員数 (人)					
		普通	特別 支援	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特別 支援	計	校長	教頭	教諭	養護 教諭	事務 職員	栄養 教諭
1	当別小学校	12	4	39	56	57	46	68	66	7	339	1	1	19	1	2	1
2	西当別小学校	10	2	32	48	47	40	44	44	5	260	1	1	14	1	1	
小学校計		22	6	71	104	104	86	112	110	12	599	2	2	33	2	3	1
1	当別中学校	7	2	67	74	85				7	233	1	1	15	1	2	
2	西当別中学校	6	2	50	54	47				3	154	1	1	12	1	1	
中学校計		13	4	117	128	132				10	387	2	2	27	2	3	
合計		35	10							22	986	4	4	60	4	6	1

平成29年5月1日現在

学校名	校舎 構造	校舎面積 (㎡)	屋体面積 (㎡)	校地面積 (㎡)	校舎建設年	屋体建設年
当別小学校	R	4,922	983	20,967	昭和46年	平成24年
西当別小学校	R	4,351	702	15,789	昭和57年	昭和58年
小学校合計		9,273	1,685	36,756		
当別中学校	R	4,234	950	43,310	昭和44年	昭和44年
西当別中学校	R	3,839	678	28,749	昭和55年	昭和54年
中学校合計		8,073	1,628	72,059		
小中合計		17,346	3,313	108,815		

※R：鉄筋コンクリート造

2 児童生徒数の推移

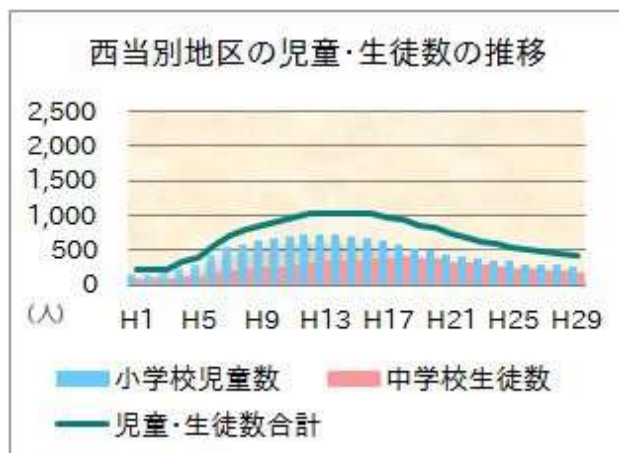
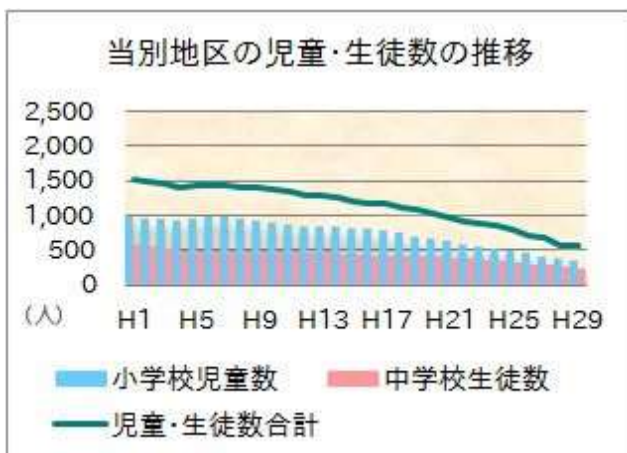
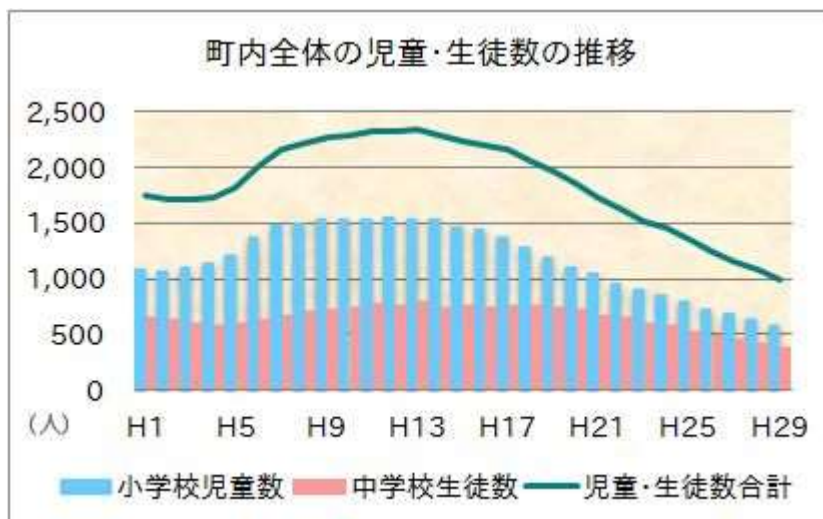
◆ 小学校児童数

年度	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
25	115	119	132	136	150	161	813
26	100	116	116	128	134	148	742
27	109	99	113	112	134	134	701
28	103	104	91	114	110	128	650
29	72	107	105	90	114	111	599

◆ 中学校生徒数

年度	1年	2年	3年	計
25	160	178	194	532
26	158	159	178	495
27	140	160	160	460
28	131	138	161	430
29	119	132	136	387

各年5月1日現在（単位：人）



3 各学校統合年の一覧

◆ 小学校

	学校名	統 合 年 の 一 覧	
当別小学校	当別小		
	東裏小	H20	
	蔵岱小	H19	
	中小屋小	H18	
	川下小	H16	
	金沢小	H1	
	材木沢小	S40	
	弁華別小	H28	
	青山小	S50	
	青山中央小	H12	
	二股小	S50	
	四番川小	S48	
	三番川小	S46	
西当別小学校	西当別小		
	太美小	S26	
	獅子内小	S26	
	当別高岡小	H3	

◆ 中学校

	学校名	統 合 年 の 一 覧	
当別中学校	当別中		
	中小屋中	H17	
	弁華別中	H28	
	青山中央中	H12	
	二股中	S48	
	三番川中	S46	
	四番川中	S42	
西当別中学校	西当別中		
	当別高岡中	S43	

4 各学校概況

当 別 小 学 校 (中学校併設型小学校)

校章・所在地	〒061-0222 北海道石狩郡当別町元町 102 番地 電話：0133-23-2102 FAX：0133-23-3760 【校章の意味】 中央に当別小の文字。3つの輪は考える〈智〉、明るい〈徳〉、元気な〈体〉の調和を表す。								
校歌	一 紫雲にけふる 阿蘇の山 麓をめぐる当別の 流れつきせぬ 学びやに 至誠の華は香るなり 作詞 大橋 涉 作曲 末武 義雄 二 由緒も深き 開拓の 先人の意気しのびつつ 心をつくし 身をつくし 誠の道にはげみなん								
沿革の概要	<table border="0"> <tr> <td> 明治 5 年 鮎田如牛が当別町において開塾 6 年 「当別教育所」と改称 3 9 年 校舎現在地移転 4 3 年 北海道庁官より教育の侯に対し選賞 大正 9 年 校舎新築 昭和 2 2 年 6・3 制により「当別小学校」と改称 3 9 年 特殊学級「いなほ」1 学級認可 4 1 年 石狩教育研究会特別活動中心校指定 プール完成（当別学校プール 1 号） 4 4 年 体育館完成 4 7 年 新校舎完成、落成式举行 開校 1 0 0 周年記念式典举行、 記念公開研究会開催、 記念事業協賛会より中庭造成寄贈 5 2 年 学校基本調査について文部大臣表彰 5 3 年 学校の教育目標改訂 5 7 年 創立 1 1 0 周年記念式典举行、 P T A 記念事業により遊具施設設置 5 8 年 石狩地区小学校放送教育研究指定校 5 9 年 石狩管内教育実践表彰受賞 石狩地区小中学校放送教育研究大会開催 6 3 年 「ことばの教室」1 学級認可 </td><td> 平成 7 年 学校給食開始 1 2 年 コンピュータ教室設置 1 4 年 開校 1 3 0 周年記念写真集作成 石狩管内教育機器連盟研究大会開催 1 6 年 石狩管内教育実践奨励表彰受賞 ことばの教室が通級指導教室となる 1 7 年 オヤジの会発足 2 4 年 体育館改築 開校 140 周年記念事業 （全校集合写真・記念バザー・ 記念集会・記念誌作成） 2 7 年 全国書道コンクール団体優勝 （1 5 年連続 2 6 回目） 全国学生書道展覧会団体優勝 （2 1 年連続 3 1 回目） 電子黒板・書画カメラ設置 当教研学校課題研究発表会 2 8 年 弁華別小学校閉校により本校に統合 </td></tr> </table>	明治 5 年 鮎田如牛が当別町において開塾 6 年 「当別教育所」と改称 3 9 年 校舎現在地移転 4 3 年 北海道庁官より教育の侯に対し選賞 大正 9 年 校舎新築 昭和 2 2 年 6・3 制により「当別小学校」と改称 3 9 年 特殊学級「いなほ」1 学級認可 4 1 年 石狩教育研究会特別活動中心校指定 プール完成（当別学校プール 1 号） 4 4 年 体育館完成 4 7 年 新校舎完成、落成式举行 開校 1 0 0 周年記念式典举行、 記念公開研究会開催、 記念事業協賛会より中庭造成寄贈 5 2 年 学校基本調査について文部大臣表彰 5 3 年 学校の教育目標改訂 5 7 年 創立 1 1 0 周年記念式典举行、 P T A 記念事業により遊具施設設置 5 8 年 石狩地区小学校放送教育研究指定校 5 9 年 石狩管内教育実践表彰受賞 石狩地区小中学校放送教育研究大会開催 6 3 年 「ことばの教室」1 学級認可	平成 7 年 学校給食開始 1 2 年 コンピュータ教室設置 1 4 年 開校 1 3 0 周年記念写真集作成 石狩管内教育機器連盟研究大会開催 1 6 年 石狩管内教育実践奨励表彰受賞 ことばの教室が通級指導教室となる 1 7 年 オヤジの会発足 2 4 年 体育館改築 開校 140 周年記念事業 （全校集合写真・記念バザー・ 記念集会・記念誌作成） 2 7 年 全国書道コンクール団体優勝 （1 5 年連続 2 6 回目） 全国学生書道展覧会団体優勝 （2 1 年連続 3 1 回目） 電子黒板・書画カメラ設置 当教研学校課題研究発表会 2 8 年 弁華別小学校閉校により本校に統合						
明治 5 年 鮎田如牛が当別町において開塾 6 年 「当別教育所」と改称 3 9 年 校舎現在地移転 4 3 年 北海道庁官より教育の侯に対し選賞 大正 9 年 校舎新築 昭和 2 2 年 6・3 制により「当別小学校」と改称 3 9 年 特殊学級「いなほ」1 学級認可 4 1 年 石狩教育研究会特別活動中心校指定 プール完成（当別学校プール 1 号） 4 4 年 体育館完成 4 7 年 新校舎完成、落成式举行 開校 1 0 0 周年記念式典举行、 記念公開研究会開催、 記念事業協賛会より中庭造成寄贈 5 2 年 学校基本調査について文部大臣表彰 5 3 年 学校の教育目標改訂 5 7 年 創立 1 1 0 周年記念式典举行、 P T A 記念事業により遊具施設設置 5 8 年 石狩地区小学校放送教育研究指定校 5 9 年 石狩管内教育実践表彰受賞 石狩地区小中学校放送教育研究大会開催 6 3 年 「ことばの教室」1 学級認可	平成 7 年 学校給食開始 1 2 年 コンピュータ教室設置 1 4 年 開校 1 3 0 周年記念写真集作成 石狩管内教育機器連盟研究大会開催 1 6 年 石狩管内教育実践奨励表彰受賞 ことばの教室が通級指導教室となる 1 7 年 オヤジの会発足 2 4 年 体育館改築 開校 140 周年記念事業 （全校集合写真・記念バザー・ 記念集会・記念誌作成） 2 7 年 全国書道コンクール団体優勝 （1 5 年連続 2 6 回目） 全国学生書道展覧会団体優勝 （2 1 年連続 3 1 回目） 電子黒板・書画カメラ設置 当教研学校課題研究発表会 2 8 年 弁華別小学校閉校により本校に統合								
教育目標	一人一人の子どもを大事にし、大事にされ合う人間関係の中で、平和で幸福な社会の担い手として、小中 9 年間を見通した心身の調和のとれた人間性豊かな子どもを育てる。 <table border="0"> <tr> <td>◇ 知性をみがく子ども</td><td>（よく考える子ども）〈知〉</td></tr> <tr> <td>◇ 心豊かな子ども</td><td>（心のゆたかな子ども）〈情〉</td></tr> <tr> <td>◇ 意志の強い子ども</td><td>（さいごまでやりぬく子ども）〈意〉</td></tr> <tr> <td>◇ からだのじょうぶな子ども</td><td>（強いからだの子ども）〈体〉</td></tr> </table>	◇ 知性をみがく子ども	（よく考える子ども）〈知〉	◇ 心豊かな子ども	（心のゆたかな子ども）〈情〉	◇ 意志の強い子ども	（さいごまでやりぬく子ども）〈意〉	◇ からだのじょうぶな子ども	（強いからだの子ども）〈体〉
◇ 知性をみがく子ども	（よく考える子ども）〈知〉								
◇ 心豊かな子ども	（心のゆたかな子ども）〈情〉								
◇ 意志の強い子ども	（さいごまでやりぬく子ども）〈意〉								
◇ からだのじょうぶな子ども	（強いからだの子ども）〈体〉								

経営の重点	◎知・徳・体の教育活動をバランスよく実施し、総合的に子供たちを伸ばす ○学び方を身に着け、思いやりの心を持った心身ともに健康な子 ◆ ドリカムプロジェクトによる確かな学力の定着・向上（かしこく） ◆ 個々を伸ばし、豊かな人間性・社会性の育成（やさしく） ◆ 健康・体力の増進、安全教育（たくましく） ◆ 信頼される学校・地域とともにある学校づくり																																													
研究主題	《 重点目標 》 かしこく、やさしく、たくましい 子供の育成 ～学び方を身に着け、思いやりの心を持った心身ともに健康な子～ 《 研究テーマ 》 『生き生きとした学びを生み、確かな読みの力を育てる指導のあり方』																																													
特色ある教育活動	1 確かな学力の定着・向上の取組 「基礎学力」と「続ける力」を育てるドリカムプロジェクトにより、絶対に身に付けさせる基礎学力を明確化し、全学級で共通した取組を行う。 2 小中9年間を見通した小中一貫教育の取組 小中で目指す児童生徒像の共有化を図りながら、9年間を見通した指導計画の作成、小中合同研修会の開催、乗り入れ授業等の取組を行う。 3 読書活動の推進 朝読書（全校一斉）をはじめ、読み聞かせ・読み語りのボランティアの協力も得ながら読書に親しませることによって、豊かな心を育て、確かな学力の基盤を整える。 4 書道教育の推進 週1回の朝書道では、筆ペンや硬筆で名前や名文を練習する。また、毎月「書道の週間」を設け、全校一斉に書道に親しむ活動を行う。																																													
学級編制	平成29年5月1日現在 <table><tr><td>学年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>特別支援学級</td><td>合計</td></tr><tr><td>学級数</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>4</td><td>16</td></tr><tr><td>男子</td><td>20</td><td>25</td><td>28</td><td>23</td><td>31</td><td>34</td><td>6</td><td>167</td></tr><tr><td>女子</td><td>19</td><td>31</td><td>29</td><td>23</td><td>37</td><td>32</td><td>1</td><td>172</td></tr><tr><td>合計</td><td>39</td><td>56</td><td>57</td><td>46</td><td>68</td><td>66</td><td>7</td><td>339</td></tr></table>	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計	学級数	2	2	2	2	2	2	4	16	男子	20	25	28	23	31	34	6	167	女子	19	31	29	23	37	32	1	172	合計	39	56	57	46	68	66	7	339
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計																																						
学級数	2	2	2	2	2	2	4	16																																						
男子	20	25	28	23	31	34	6	167																																						
女子	19	31	29	23	37	32	1	172																																						
合計	39	56	57	46	68	66	7	339																																						
教職員	平成29年5月1日現在 校長 西野典男 教頭 関口 涼 教職員数 教諭 22名 養護教諭 1名 栄養教諭 1名 事務職員 2名 非常勤講師 1名 特別支援学級介助員 1名 特別支援教育支援員 1名																																													

西 当 別 小 学 校 (中学校併設型小学校)

校章・所在地



〒061-3776

北海道石狩郡当別町太美町 1481 番地

電話：0133-26-2170 FAX：0133-26-2813

【校章の意味】

雪のように清らかに、鏡のように曇りなき心身の発達成長への願いを表す。

校歌

三 夕雲遠く しずまりて
阿蘇岩山に あかねさす
われらはのぞみ もやしあい
育つよ育つ すこやかに
西当別の小学校

二 緑の原を つらぬきて
石狩川の 水清し
われらはともに 手を結び
進むよ進む ひとすじに
西当別の小学校

一 青き手稲の かがやけば
豊かなる野に 風かおる
われらはあした 集い来て
学ぶよ学ぶ さわやかに
西当別の小学校

作詞 坂本 甫 亮
作曲 津田 本

沿革の概要

昭和 26 年	獅子内小学校・太美小学校が合併し 西当別小学校設立 新校舎落成・移転 校章制定	平成 14 年	視聴覚室改修
27 年	西当別小学校校歌制定	15 年	児童図書管理コンピューター化
32 年	校舎増築、屋内体育館完成	16 年	ハマナス 50 本植樹 (朝日新聞社より寄贈)
36 年	開校 10 周年記念式挙行	18 年	文部科学省指定の「小中連携事業」 開始 (2 か年)
46 年	開校 20 周年記念式挙行	19 年	国際理解教育開始 (ALT との学習) JICA 研修員学校訪問 (アフリカ諸国より)
48 年	増築校舎完成 (理科室・準備室、視聴覚室、 放送室、保健室)	22 年	当別町青少年善行賞受賞 (リングブル・エコキャップ収集) 当別町 140 年記念パレード見学、 記念式典参加 (5 年生)
50 年	北海道小中学校放送教育研究大会開催	23 年	大崎市へ震災復興激励の横断幕の送付
56 年	開校 30 周年記念式・祝賀会	24 年	JR 電化祝賀式典参加
57 年	新校舎完成 (普通教室 4・音楽室・理科室)	26 年	西当別地区プレイハウスが西当別 小学校内へ移転
58 年	新体育館落成式・祝賀会	27 年	電子黒板・書画カメラ設置
62 年	開校記念日指定・祝賀会	28 年	小中一貫教育推進教師配置 (西当別中学校と兼務) JICA 研修員学校訪問 (アフリカ諸国より) レクサンド市教育委員会視察団訪問
平成 元年	グラウンド改修工事		
3 年	高岡小学校本校へ統合		
6 年	増築校舎落成式・祝賀会		
7 年	プレハブ校舎 4 教室完成		
8 年	増築校舎完成式 (普通教室 8・音楽室・図工室)		
9 年	「たんぽぽ学級」設置		
13 年	新学校教育目標制定 開校 50 周年記念式・祝賀会		

教育目標

◇ 心ゆさぶる感性	〈心〉	・ のびのび語り合う子
◇ 学び求める知性	〈学び〉	・ ぐんぐん学び合う子
◇ 生き方がく個性	〈生き方〉	・ もりもりきたえ合う子

[平成 13 年 3 月改定]

経営の重点	◆確かな学びづくり 基礎・基本的事項の確実な習得を徹底した学力の向上 ◆豊かな心づくり 「挨拶」を起点とした心の教育の充実 ◆健やかな体づくり 体力の向上と健康安全教育の推進 ◆保護者・地域との連携を深めたコミュニティースクールづくり ◆小中一貫教育の本格的な推進																																													
研究主題	《 重点目標 》 「進んで学び、高め合う、心豊かでたくましい児童の育成」 《 研究主題 》 「自らの考えを深め、表現できる子どもの育成」 ～算数科における学習過程の工夫の実践～																																													
特色ある教育活動	1 基礎・基本を大切に確かな学力を身につける学習指導 ・1～3年は国語と算数、3～6年は算数の時間にT T・習熟度別少人数指導を実施 ・全校一斉に毎朝「朝読書」「ドリルタイム」に取り組む ・学生ボランティアS A Tを活用した授業の実施 ・小中一貫教育推進教師の活用（算数、理科、英語） 2 地域の人材を活用した学習支援活動（ときめきバンク・学校支援地域本部事業ボランティア） ・様々な教科や特別活動、総合学習の時間などに「ときめきバンク」（人材バンク）に登録している人材の活用 3 N P Oと取り組む環境教育 ・N P Oの協力を得て、環境教育に積極的に取り組む（5年「道民の森」での学習など） 4 活発に行われる読書活動 ・全校一斉の「朝の読書」、11月の読書月間、地域ボランティアによる本の読み聞かせなど、読書活動を通して豊かな心を養い、国語力向上を目指した取り組み 5 生き生きと展開する児童会活動 ・思いやりの心を育て、児童相互のふれあいを大切にした「ふれあい集会」 ・リングプル回収運動による福祉施設への車いす寄贈、児童会が主体的に計画運営する「西小タイム」、西当別中と連携した環境活動「クリーン作戦」 6 基本的な生活習慣や子どもの生きる力を育てる幼保小中連携事業の充実・発展 ・保育所園児の学校体験会、1年生との交流活動 ・6年生の中学校訪問、授業体験 ・小中合同クリーン作戦、芸術鑑賞会、いじめ集会など合同行事の開催																																													
学級編制	平成29年5月1日現在 <table><tr><td>学年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>4年</td><td>5年</td><td>6年</td><td>特別支援学級</td><td>合計</td></tr><tr><td>学級数</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>12</td></tr><tr><td>男子</td><td>11</td><td>24</td><td>23</td><td>26</td><td>24</td><td>19</td><td>5</td><td>132</td></tr><tr><td>女子</td><td>21</td><td>24</td><td>24</td><td>14</td><td>20</td><td>25</td><td>0</td><td>128</td></tr><tr><td>合計</td><td>32</td><td>48</td><td>47</td><td>40</td><td>44</td><td>44</td><td>5</td><td>260</td></tr></table>	学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計	学級数	1	2	2	1	2	2	2	12	男子	11	24	23	26	24	19	5	132	女子	21	24	24	14	20	25	0	128	合計	32	48	47	40	44	44	5	260
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	合計																																						
学級数	1	2	2	1	2	2	2	12																																						
男子	11	24	23	26	24	19	5	132																																						
女子	21	24	24	14	20	25	0	128																																						
合計	32	48	47	40	44	44	5	260																																						
教職員	平成29年5月1日現在 校長 難波 雅 弘 教頭 山 谷 潤 教職員数 教諭 14 名 養護教諭 1 名 事務職員 1 名 一貫教育推進講師 1 名 特別支援学級介助員 1 名 特別支援教育支援員 1 名																																													

当 別 中 学 校 (小学校併設型中学校)

校章・所在地



〒061-0205

北海道石狩郡当別町下川町 125 番地

電話：0133-23-2158 FAX：0133-23-2956

【校章の意味】

当の大文字で囲み、全体を雪の結晶とし、たくましく生きる力を表す。

校歌

三 開拓の祖 遠くして 愛と真の 血を伝う 男子女子 手を執りて 結ぶ友垣 誇りあり 吾ら讃えん ああ我が郷土	二 白雪映える 阿蘇岩の 高嶺に想う あけくれは 真理きわめて らんまんの 花咲かせてん 念願あり 文化の殿堂 ああ我が学舎	一 緑風匂う 石狩の 愛の園生に 生い立ちて 光あたらしき 日の本の 使命に生きん 祈りあり 平和の先駆 ああ我が学友	作詞 井上 治雄 作曲 藤 定一
--	---	--	-----------------------------

沿革の概要

昭和 22年 当別村立当別中学校が開校 校章制定 25年 校歌制定 27年 独立校舎に移転（旧競馬場跡） 30年 中小屋分校が独立 32年 三番川、四番川分校が本校の分校になる 同窓会発足 開校10周年記念式典 33年 三番川、四番川分校が独立 36年 当別川が氾濫し校舎床上浸水 41年 ときわ学級開設（特殊学級） 42年 開校20周年合同記念式典 44年 牛乳給食開始 新校舎完成竣工・移転完了 48年 スクールバス運行開始 52年 開校30周年記念式典 58年 校舎改築工事 平成 4年 石狩管内教育実践奨励賞受賞 8年 学校給食開始	平成 9年 スクールカウンセラー配置 15年 当別中学校開校50周年記念式典 第3回東日本学校 吹奏楽コンクール金賞（C編成） 17年 除雪ボランティア善行顕彰を受賞 19年 石教研学校課題研究発表 20年 剣道部女子全道大会出場 21年 相撲部全道大会準優勝、 剣道部女子全道大会出場 22年 相撲部全道大会準優勝 当別町140周年記念パレード、 記念式典参加 23年 校舎・体育館耐震化工事完了 バックネットの改修工事完了 24年 JR学園都市線電化開業記念イベント参加 25年 東生徒トイレ改修 26年 西生徒トイレ改修 27年 電子黒板・書画カメラ設置 28年 弁華別中学校閉校により本校に統合
---	--

教育目標

- ◇ 真剣に学び 自己を高めよう
- ◇ 協力しあい 責任ある行動をとろう
- ◇ 自ら実行し 最後までやりぬこう
- ◇ 美しいものに感動できる豊かな心をもとう
- ◇ 身体を鍛え たくましくなろう

精 神

「優しく 強く」

経営の重点	【主体性を育み、生徒個々に応じた確かな学力の定着】 ◆ 基礎・基本の習得と活用力を図るための授業の工夫・改善 ◆ 自ら考え、自分から進んで取り組むなど、主体的・意欲的な授業参加 ◆ 生徒一人ひとりの学習状況を的確に捉え、個に応じたきめ細かな指導の充実 ◆ 学習の定着を図るため、自ら課題を設定し、学年に応じた家庭学習の習慣化 ◆ 小中一貫の考えに立って、9年間を見通した教育の充実 【自主・自立の育成を図り、心身ともに健康で心豊かに生きる力の育成】 ◆ 挨拶、言葉遣い、マナーなど、基本的生活習慣の徹底、自己指導能力の育成 ◆ 道徳指導の充実、内面に迫る道徳性を育てた思いやりと感謝の心の育成 ◆ 自己有用感、自己肯定感を高めることによる不登校未然防止・早期解決 ◆ 児童会との連携、体験活動・ボランティア活動の充実と地域発進力の強化 ◆ 体育的行事や部活動活性化促進、目標に向かって取り組む強い意志と体力の育成 ◆ 小中連携を図りながら、教育活動全般に渡るリーダーの育成																														
研究主題	《 学 校 課 題 》 学び合い、認め合い、高め合う心豊かな生徒の育成 《 研 究 主 題 》 「一人ひとりに確かな学力を育む指導の工夫」 ～基礎・基本の定着と学習習慣の確立を目指して～																														
特色ある教育活動	(1) 数学、理科、英語でT T・少人数学習・習熟度別授業を実施 (2) 全校的に日常の朝自習、週末課題への取り組み、放課後学習会、補習の実施 (3) 総合的な学習の時間では「生き方を求めて」を共通テーマ ○ 1年生 ～ 農業体験（ジャガイモの栽培） ○ 2年生 ～ 職場体験学習（2日間） ○ 3年生 ～ 当別を知る (4) 体育ではスキー学習、武道等で地域の特性を生かした授業の実施 (5) 部活動については体育系7部、文化系3部 (6) 町内の各種催事で吹奏楽部が演奏 (7) 小中一貫教育（小学校登校等）、コミュニティースクール																														
学級編制	平成29年5月1日現在 <table><tr><td>学年</td><td>1年</td><td>2年</td><td>3年</td><td>特別支援学級</td><td>合計</td></tr><tr><td>学級数</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>2</td><td>9</td></tr><tr><td>男子</td><td>36</td><td>35</td><td>49</td><td>7</td><td>127</td></tr><tr><td>女子</td><td>31</td><td>39</td><td>36</td><td>0</td><td>106</td></tr><tr><td>合計</td><td>67</td><td>74</td><td>85</td><td>7</td><td>233</td></tr></table>	学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計	学級数	2	2	3	2	9	男子	36	35	49	7	127	女子	31	39	36	0	106	合計	67	74	85	7	233
学年	1年	2年	3年	特別支援学級	合計																										
学級数	2	2	3	2	9																										
男子	36	35	49	7	127																										
女子	31	39	36	0	106																										
合計	67	74	85	7	233																										
教職員	平成29年5月1日現在 校長 武岡 則夫 教頭 小森 享 教職員数 教諭 17名 養護教諭 1名 事務職員 2名 非常勤講師 1名 一貫教育推進講師 1名 特別支援教育支援員 2名																														

西 当 別 中 学 校 (小学校併設型中学校)

校章・所在地



〒061-3772

北海道石狩郡当別町獅子内 5134 番地 1

電話：0133-26-2252 FAX：0133-26-2412

【校章の意味】

六角形の雪の結晶に、西当の文字を図案化し、中の字の周りに配する。

校歌

作詞・作曲 倉島 繁

一 石狩の 潮騒遠く
夕映えの 広がるほとり
厳かしく 立てる学び舎
西当別 われらのふるさと

二 緑なす 森の梢に
先人の 功徳びつ
集い合う 若人われら
西当別 われらのふるさと

三 涼風は 垂穂にそよぎ
行く水は 広野うるほす
豊けしや みのりの里わ
西当別 われらのふるさと

四 大いなる 恵の朝
われら今 光を受けて
踏み分けん 真の長道
西当別 われらのふるさと

沿革の概要

昭和 22 年	獅子内小に併置開校 当別町制施行町立に	平成 13 年	特殊学級設置・10 学級編制
23 年	校章制定、独立校舎落成	14 年	全道新体操準優勝(岩倉 歩) 全道陸上砲丸投げ 3 位(山本竜太) 110mH 3 位(寺尾瑞基)
25 年	高岡分校設置	15 年	全道新体操優勝(岩倉 歩) 全道水泳 50m 自由形 3 位、100m 自由形 2 位(太田千晶) 全国新体操準優勝(岩倉 歩)
26 年	旧校歌制定	16 年	全道ソフトボール大会 3 位
31 年	体育館落成	17 年	新教育目標設定
32 年	開校 10 周年式典	18 年	全道ソフトボール大会 3 位 18・19 年度国立教育政策研究所委嘱 事業 小中連携教育実践研究指定校 当別町学校教育研究推進協議会学校 研究発表会
38 年	高岡分校独立	19 年	道「青少年の主張」大会優秀賞(萩原有希)
42 年	開校 20 周年式典	20 年	石狩管内教育実践奨励賞受賞
43 年	高岡中学校統合	21 年	モンゴル国教育視察団訪問
46 年	町プール校地に設置	22 年	ESD 日米教員交流団来校
49 年	スクールバス運行	23 年	当別町学校教育研究推進協議会学校 研究発表会
51 年	石狩管内教育実践奨励賞受賞	25 年	体育館大規模改修工事
52 年	開校 30 周年式典	26 年	旧校舎給水管改修工事
54 年	体育館落成	27 年	校務用生徒用パソコン更新
56 年	新校舎落成記念式典	29 年	電子黒板・書画カメラ設置
57 年	校舎落成記念植樹 グラウンド完成		開校 70 周年
平成 4 年	学校週 5 日制開始		
8 年	学校給食完全実施、事務補配置 全国スキー大会回転優勝(豊島堅太)		
9 年	開校 50 周年式典・スウェーデン訪問		
11 年	全道剣道大会 3 位(菊池麻耶)		
12 年	増築校舎完成 町 P 連研究大会 (本校 P T A 主管)		

教育目標

ここ西当別の大地で、
◇ 高い知性 〈知〉
◇ 強い意志 〈徳〉
◇ 健やかな体 〈体〉
を求め、自らの進路を切り拓こう

[平成 17 年 2 月制定]

経営の重点	◆ 実践力豊かな信頼される学校づくりの推進 ◆ 生徒の生きる力と自己実現を図る教育の推進 ◆ 基礎基本の確実な習得と自ら考え判断し表現する力を育む教育の推進 ◆ 豊かな心と健やかな体を培い、社会性を育む教育の推進 ◆ 共生を基盤とした豊かな人間性を育む教育の推進 ◆ 時代の要請や今日的な教育課題を踏まえ、新たな可能性を創造する教育の推進 ◆ 家庭、地域と連携し、地域と共に歩む教育の推進 ◆ 学校いじめ防止基本方針に基づく教育の推進 ◆ 小中一貫教育基本方針に基づく教育の推進																														
研究主題	《 学 校 課 題 》 知・徳・体”をバランスよく備えた 15 歳の生徒像の実現 《 研 究 主 題 》 「学習規律」を通して教職員の生徒に対する関わり方を「見える化」する ～ 学習規律の一貫性を図りながら ～																														
特色ある教育活動	①朝読書 全学年年間を通した朝読書の実施 ②生徒会活動 ピアサポート（支え助け合う仲間づくり）の実践、ボランティア（校区内小中合同クリーン作戦・老人ホーム訪問・花壇整備地域清掃・小中合同いじめ撲滅集会など）活動の充実 ③小中一貫教育 学校行事・部活動・児童生徒会の交流事業・小中交流会・新入生説明会乗り入れ授業・合同研修など																														
学級編制	平成 2 9 年 5 月 1 日現在 <table><tr><td>学年</td><td>1 年</td><td>2 年</td><td>3 年</td><td>特別支援学級</td><td>合計</td></tr><tr><td>学級数</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>8</td></tr><tr><td>男子</td><td>31</td><td>27</td><td>25</td><td>2</td><td>85</td></tr><tr><td>女子</td><td>19</td><td>27</td><td>22</td><td>1</td><td>69</td></tr><tr><td>合計</td><td>50</td><td>54</td><td>47</td><td>3</td><td>154</td></tr></table>	学年	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	合計	学級数	2	2	2	2	8	男子	31	27	25	2	85	女子	19	27	22	1	69	合計	50	54	47	3	154
学年	1 年	2 年	3 年	特別支援学級	合計																										
学級数	2	2	2	2	8																										
男子	31	27	25	2	85																										
女子	19	27	22	1	69																										
合計	50	54	47	3	154																										
教職員	平成 2 9 年 5 月 1 日現在 校 長 菅 原 裕 行 教 頭 寺 嶋 裕 介 教職員数 教諭 15 名 養護教諭 1 名 事務職員 1 名 非常勤講師 3 名 一貫教育推進講師 1 名 特別支援教育支援員 2 名																														

➤ 2 平成29年度当別町学力向上プラン

1 めざす人間像

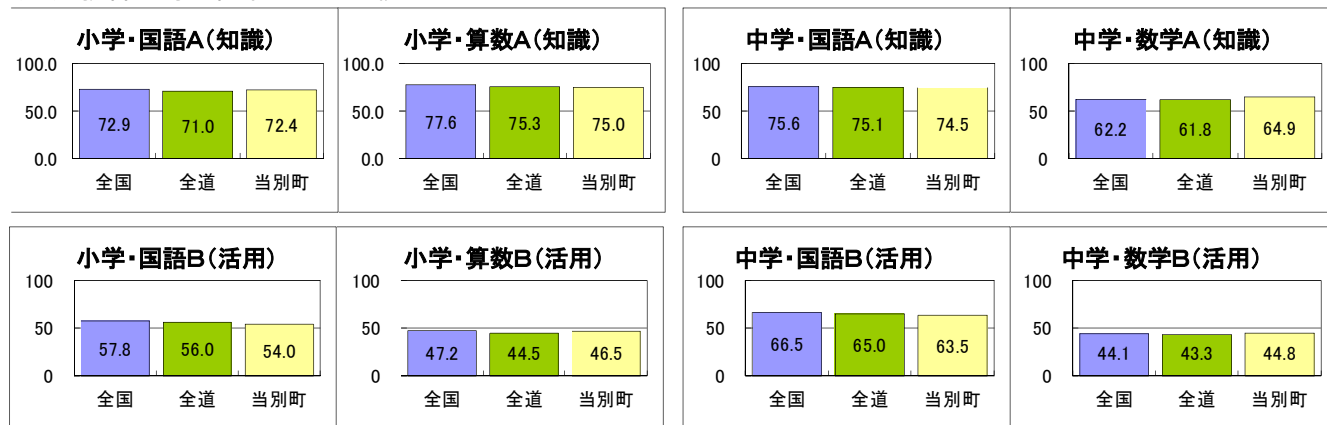
～ 社会を背負う、世界にも通用する「知・徳・体」を備えた人 ～

2 基本方針

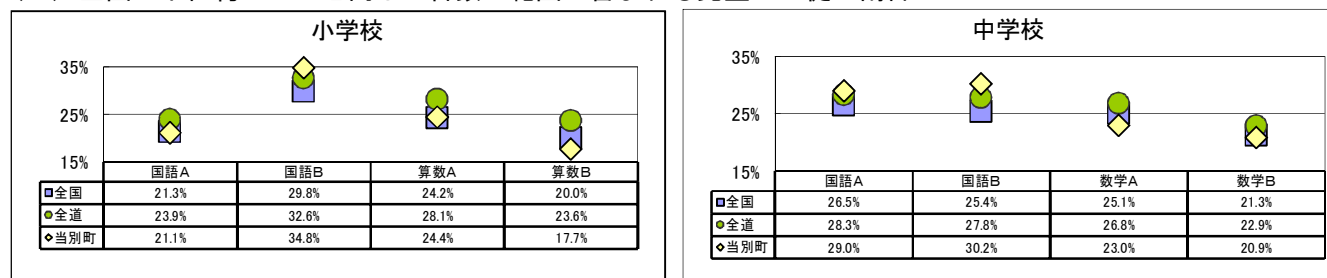
～ 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた一貫教育の推進 ～

3 当別の児童生徒たちの現状—平成28年度全国学力・学習状況調査より

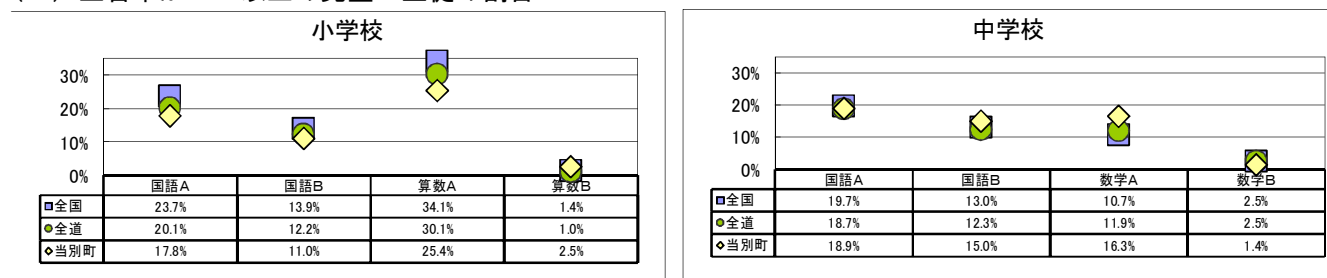
(1) 教科平均正答率による比較



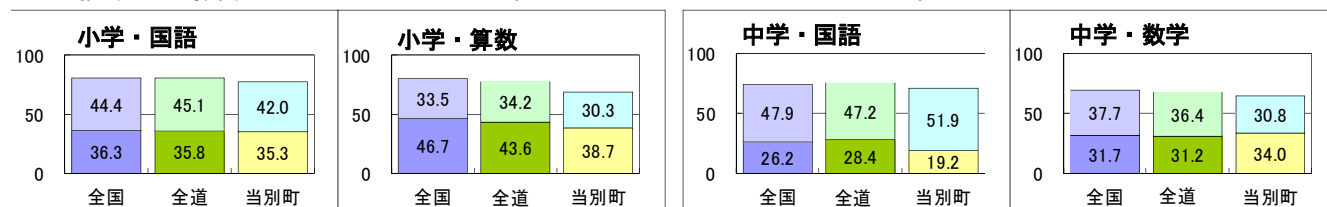
(2) 全国の下位約25%と同じ正答数の範囲に含まれる児童・生徒の割合



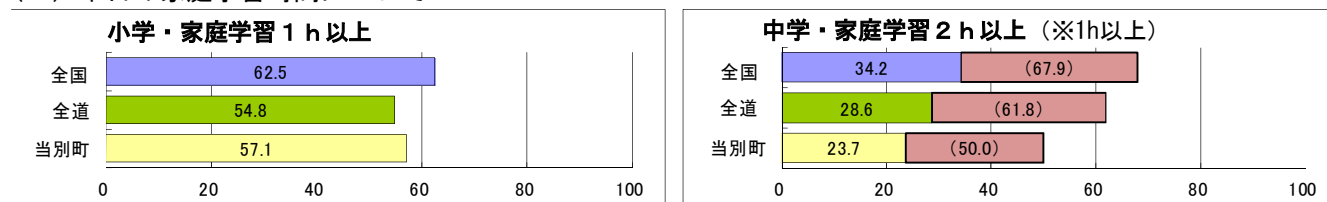
(3) 正答率が90%以上の児童・生徒の割合



(4) 授業の理解度について（下段：よくわかる・上段：どちらかといえばわかる）



(5) 平日の家庭学習時間について



※小学校は、27年度の67.7%から減少している。

※中学校は、27年度の23.1%から少し向上した。

4 学力面の課題

(1) 小学校

- ①平均正答率では国語、算数共に、全国平均と若干の差は見られるが、ほぼ同程度。
- ②下位層(全国約25%)に占める割合は国語Bで全国より多く、算数Bでは全国より少ない。
- ③正答率が90%以上の児童の割合が、算数B以外、全国平均を下回っている。

(2) 中学校

- ①平均正答率では、国語が全国との差はわずかであった。数学では全国平均を上回った。
- ②下位層(全国約25%)に占める割合は国語A・Bで全国より多く、算数A・Bで全国より少ない。
- ③正答率が90%以上の生徒の割合が、国語B、数学Aで全国より大きく上回った。

5 質問紙調査にみる課題

- ①小学校では、TVやDVD視聴の時間は平成27年度より増加し、スマートフォンやインターネット使用時間も増加している。いずれも全国より多い。中学生ではTVやDVD視聴の時間は平成27年度より減少し、全国より少ない。しかし、スマートフォンやインターネット使用時間は、全国より増加し、平成27年度よりも増加している。
- ②平日、家庭での学習時間は、小学生で「1時間以上」と答えた児童は、全国を5.4ポイント下回り、中学校で「2時間以上」と答えた生徒も、全国より10.5ポイント下回っている。中学生の「1時間以上」は小学校と比較しても低いことが課題としてある。
- ③小学生は、平成27年度と同様、「朝食を食べてない・あまり食べていない」と答えた児童の割合が高い。就寝時刻も平成25年度調査より遅くなっている。中学生は「食べている」、「どちらかといえば食べている」と回答した生徒の割合が全国より2.2ポイント多いものの、平成27年度に比べて2.4ポイント減少している。就寝・起床時間や朝食摂取の基本的な生活習慣の乱れがみられる。
- ④「読書が好き」と答えた割合は、小学生で45.4%で全国平均より少なく、平成27年度より7.8ポイント減少している。中学生では50.0%で全国平均より高い結果になり、平成27年度よりも大幅に増加した。

6 教育委員会の重点目標と具体的な取組

● 学校全体で取組む「確かな学力」の育成

- (1)一貫教育推進と教育課程実施に対する支援・指導
- (2)各校学力改善プランへの指導・助言
- (3)小学校英語教育・道徳教育への支援
- (4)学校教育と社会教育の連携による児童生徒支援
- (5)放課後・土曜学習の実施
- (6)一貫教育推進講師及び特別支援教育支援員の増員
- (7)小学校へのデジタル教科書配備(中学校については平成28年度に配備済)

● 教員の資質向上

- (1)主催事業「教員研修」の開催
- (2)校内研修の実施
- (3)町内教育研究団体への支援

7 学校の取組

①自校の教育課題解決のための教育課程の適切な編成・実施・評価・改善の取組

③成長のステップを押さえ系統立てた学力向上のための小中一貫の各種取り組みの実行と評価・改善

⑤積極的な情報提供と、家庭学習や安全確保など保護者・地域との協働、連携、コミュニティ・スクール導入による取組の拡充

②「学校改善プラン」に基づく課題・具体策の教職員間での共通理解、IT指導や習熟度別学習の実行・評価・改善

④授業力向上を目指した「校内研修ICT活用、板書・ノート指導、学習規律等」や「OJT」の充実

⑥道徳の時間を機軸とした明確な指導観をもった、豊かな心を育む教育の推進

8 平成29年度の目標

- (1)全国学力・学習状況調査において、全教科の平均正答率を全国平均以上へ引き上げる。(北海道共通課題)
- (2)NRT／CRT検査での小中一貫した経年分析結果を活用した授業改善の取組推進。
- (3)全国学力・学習状況調査において、下位層の割合を全国平均以下にする。
- (4)授業の内容が「わかる、良くわかる」と答える児童生徒の割合を100%になるよう、授業の工夫改善や、ICT機器を活用した効率の良い授業の推進及び実践を行う。
- (5)家庭学習の時間を、小学生で「毎日10分×学年数+10分」、中学生で「毎日2時間以上」を目途とし、「まったくしない」児童生徒を無くすことを目指した、各校の組織的な取組を行う。

9 家庭との連携

- (1)今年度の重点として、教育委員会作成の「家庭教育の手引き」より、以下の3点の実践を促す。

(学校だよりや学級通信等へ掲載)

- ①「早寝・早起き・朝ごはん」により、リズムある生活を送らせよう。
- ②家庭学習時間を確保し、毎日勉強させよう。
- ③読書時間を確保し、本に親しみ、本から学ばせよう。(毎月23日「とうべつ家読の日」の活用)

- (2)小中一貫した各学校独自の「生活リズムチェックシート・家庭学習の進め方」等の取り組みを通して家庭教育を支援する。
- (3)コミュニティスクールの実施、学校だより、学年通信、学級だより、ホームページ等により、児童生徒理解・学校理解に努め、保護者・地域との連携を推進する。

➤ 3 小中一貫教育

町では、平成27年3月に「当別町小中一貫教育に関する取組基本方針」を策定しました。

この基本方針は、当別町第4次生涯学習基本計画で検討すべきとされた一体型による一貫教育を基本としつつ、一体型一貫校設置の過程において、当分の間、現在設置されている小学校と中学校の連携のもとで、義務教育9年間を見通した系統的で継続性のある一貫した教育を実現しようとするものです。

※「当別町小中一貫教育に関する取組基本方針」の詳細は、当別町教育委員会のホームページに公開しています。（アドレス：<http://www.town.tobetsu.hokkaido.jp/site/kyoiku-top/>）

《 小中一貫教育基本方針 》 [平成27年3月策定]

1 当別町で進める小中一貫教育の目的

- 「発達段階を考慮し、義務教育9年間を見通した教育課程の構築」と「小・中学校教員それぞれが、義務教育9年間で児童生徒を育てる」という考えの下、小中一貫教育を実践していくことで、それぞれの学校での指導の効果を高め、社会で自立して生きていく上で必要な学力や体力、望ましい生活習慣や規範意識を確実に身に付けさせる
- 家庭や地域と連携して、組織的・継続的な学校支援体制をつくることで、「家庭」、「地域」、さらに「学校」の教育力を高め、地域全体で子どもたちの9年間の学びを支えるまちづくりを実践する

2 当別町小中一貫教育でめざす方向性

一貫教育でめざす人間像

社会を背負う、世界にも通用する「知・徳・体」を備えた人

一貫教育でめざす学校像

- (1) 上位の学校へのスムーズな移行や、ずれや逆転のないスムーズな学年移行が可能となる教育を行う学校
- (2) その学年で付けるべき力を全員に付けさせることができる学校
- (3) 地域や保護者の思いが生かされ共に歩める学校
- (4) 魅力が体感できる教育環境の下、先進的な取組を進める学校

一貫教育でめざす地域像

- (1) 学校がまちづくりの核である地域
- (2) 家庭教育や学校教育を支援し、共に育む環境のある地域
- (3) 子どもたちと人々の心温まるふれあいのある地域
- (4) 地域の誇りや愛着の心を子どもたちに伝えていく地域

一貫教育でめざす児童生徒像

- (1) 基礎基本と発展的学力、自ら学ぶ意欲
- (2) 豊かな人間性
- (3) 健全な心身
- (4) コミュニケーション能力
- (5) プレゼンテーション能力
- (6) 当別が好きな子ども

3 当別町で進める小中一貫教育の概要

- (1) 全小学校・中学校での小中一貫教育の実施（目標の設定）
- (2) 義務教育9年間を連続した教育課程の編成（教育課程の編成）
- (3) 地域の特色を活かした教科の導入（当別学の創設・国際教育の推進）
- (4) 児童生徒や教職員の交流（教科担任制導入や習熟度別学習と教職員の意識改革）
- (5) 発達段階に応じた学年区分による指導
- (6) 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進
- (7) 適正な学校規模の維持と良好な教育環境の確保（老朽化した施設の改善・児童生徒数の減少への対応）

4 当別町の施設形態

当初は、現在の中学校区にあわせ、2校の義務教育学校の設置を想定し、平成29年度から2校4校舎（小学校併設型中学校、中学校併設型小学校）での取り組みを進めていきます。また、なるべく早い時期に、より教育効果が得られる施設一体型の一貫教育に移行します。

5 推進体制

一貫教育を推進していくため、学識経験者、学校関係者、保護者・地域の代表、公募による町民の代表、教育委員会事務局などで構成する組織を設置します。

《 小中一貫教育の取組 》

教育委員会では、平成26年度から小中一貫教育導入に向けた研究を開始し、北海道教育委員会指定事業「小中連携、一貫教育実践事業（H26～H28）」や、文部科学省委託事業「小中一貫教育推進事業（H27～H29）」に取り組み、先進地視察や教職員研修、教育講演会、小学校第6学年の中学校登校等を実施しています。

【平成28年度の主な取組】

○ 小中一貫教育推進講師（非常勤）の配置

平成28年度から、町費で小中一貫教育推進講師を各中学校区に1名配置しています。

（主な取組）

- ① 町立小学校・中学校の児童・生徒に対する教科の指導及び補助
- ② 教材研究及び打合せ
- ③ 小中一貫教育の推進に関わり、校長が特に必要と認めた業務

○ 小中一貫教育懇談会の開催

平成27年3月に策定した「当別町小中一貫教育推進の基本方針」を踏まえ、本町における小中一貫教育の実施に向けた方策について検討を行い、一貫教育のさらなる充実を図るため、当別町小中一貫教育懇談会を開催しています。

○ 独自教科「当別みらい学」カリキュラムの研究

「目指す子ども像」の実現を図るとともに、小・中学校が一貫して、地域の教育資源を十分に活用し、特色ある教育の推進を図るため、小中一貫教育懇談会に各小・中学校の教頭・教務主任、教育委員会職員等で構成された「カリキュラム部会」を設置し、全体計画を作成しました。

○ 地域とともにある学校づくりの推進に向けた取り組み

学校、家庭、地域が一体となって小中一貫教育を推進するため、「コミュニティ・スクール」の導入に向け、教職員研修や教育講演会を実施しました。

○ 保護者説明会の実施

平成29年度からスタートする当別町の小中一貫教育について、保護者の理解を得るため、中学校区ごとに開催しました。



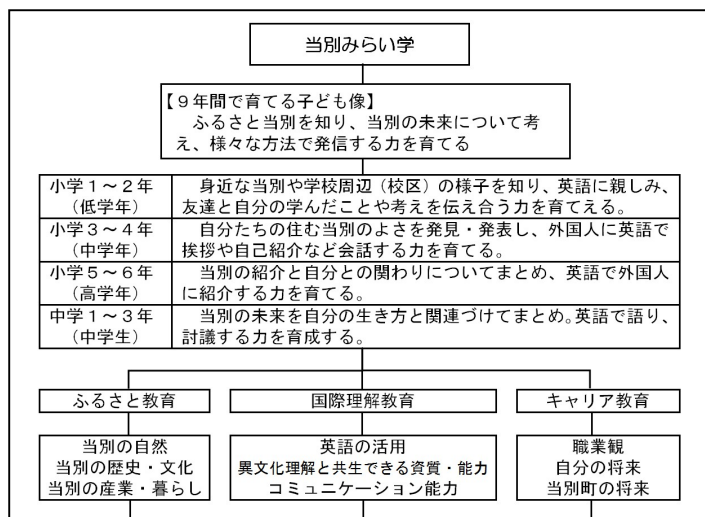
小中一貫教育推進講師



カリキュラム部会のようす



保護者説明会のようす



「当別みらい学」全体計画（一部抜粋）



保護者向けリーフレット

【平成29年度の主な取組】

○ 小中一貫教育推進講師（非常勤）の増員

平成28年度から町費で配置している小中一貫教育推進講師を1名ずつ増員し、各中学校校区2名体制で児童生徒の指導の充実を図っています。

○ 小中一貫教育懇談会の開催

本町における小中一貫教育のさらなる充実を図るため、継続的に当別町小中一貫教育懇談会を開催します。

○ コミュニティ・スクールの導入

「学校運営協議会」による地域とともにある学校づくりを推進するため、中学校区ごとに「コミュニティ・スクール準備委員会」を設置し、組織作りや活動内容などについて協議を行います。

※「学校運営協議会」は10月を目途に設置予定。

○ 児童生徒交流等の推進

中学校生活への不安軽減や中学校教員による専門的な指導に触れることを目的に、小学校第6学年の中学校登校や中学校教員による出前授業、小中合同芸術鑑賞事業等、各種取組を実施します。



【過去の小中連携・一貫教育の取組】

- 中1ギャップ問題未然防止事業（H22-24 道教委指定事業）
指定校 当別小学校・当別中学校
内容 当別町立当別中学校区における中1ギャップ解消プラン
- 小・中連携教育実践研究事業（H18-19 国立教育政策研究所受託事業）
実施校 西当別小学校・西当別中学校
研究課題 生徒指導に関する改善
～9年間を見通した一貫した生徒指導の工夫改善～

➤ 4 学校給食

1 学校給食の役割

学校給食は、栄養バランスのとれた食事の提供だけでなく、正しい食習慣・食文化を伝え、児童生徒一人一人が「自分の健康を考え、食事を選ぶ能力」を身につける大切な学びの場です。

- 栄養バランスのとれた豊かな学校給食
- 望ましい食習慣を形成する学校給食
- 人間関係を豊かにする学校給食
- 自然の恵みや感謝の心を育てる学校給食

2 施設概要

区 分	概 要
名 称	当別町学校給食センター
所 在 地	石狩郡当別町若葉2224番地
敷地面積	3,625.00 m ² (1,096.56 坪)
建物面積	1,098.12 m ² (332.18 坪)
構 造	鉄筋・鉄骨コンクリート造 一部2階建
調理場区分	共同調理場
厨房方式	ドライシステム
調理能力	最大 3,000 食／日
廃水処理	回転円板方式
厨芥処理	有機廃棄物処理方式
建設事業費	830,386 千円
実施状況	1,081 食 (平成29年5月1日現在)

○ 運 営 ～ 民間会社へ調理・配送・配膳業務を委託

3 給食費の状況

区分		実施回数 (回)	一食単価 (円)	年額 (円)
小学校	1 年	177 ～ 180	249	44,079 ～ 46,065
	2 年	185		
	3 年	185	255	47,175
	4 年			
	5 年	185	261	48,285
	6 年			
中学校	1 年	182 ～ 185	317	55,792 ～ 58,645
	2 年	178 ～ 182		
	3 年	176		

4 学校給食センター運営委員会

学校給食センター運営委員会は、教育委員会の諮問機関として11名の委員で構成されており、給食センターの運営に関わる基本的事項について審議しています。

[構成] 教職員5名、保護者3名、学識経験者3名 ※委員任期 2年

➤ 5 保護者支援制度（学校教育）

1 就学援助

経済的理由によって、就学困難と認められる児童生徒の保護者に対し、その就学に必要な援助を行う。

内訳（平成29年度支給額）※今後、変更となる場合があります。

（単位：円）

区分		小学校	中学校	支給内訳
新入学児童生徒 学用品費等	1 年	40,600	47,400	小学校又は中学校に入学する者が通常必要とする学用品及び通学用品
学用品費 (学) 通学用品費 (通) 校外活動費 (校)	1 年	(学) 11,420	(学) 22,320	各教科及び特別活動の学習に必要とされる学用品（実験、実習教材費を含む）、通学用靴、雨傘等の通学用品に係わる経費及び校外活動に参加するために必要な交通費及び見学科
	2 年	(学) 11,420 (通) 2,230 (校) 実費	(学) 22,320	
	3 年		(通) 2,230	
	4 年		(校) 実費	
	5 年			
	6 年			
体育実技用具費 小1・4年、中1年のみ	スキー	26,020	37,340	体育授業の参加に必要な体育実技用具（スキー、柔道）
	武道用具		7,510	
修学旅行費		実費	実費	小学校及び中学校で、それぞれ1回参加する修学旅行に直接必要な交通費、宿泊費、見学科などの経費
生徒会費			実費	生徒会費として負担すべき経費
PTA会費		実費	実費	PTA活動に要する費用として負担すべき経費
学校給食費		実費	実費	学校給食に要する食費の全額
医療費		実費	実費	感染症又は学校病にかかり、学校から治療の指示を受けたとき、その疾病のための医療に要する費用 学校病とは、トラコーマ及び結膜炎、白せん、疥せん及び膿疱疹、中耳炎、慢性鼻腔炎及びアデノイド、う歯、寄生虫（虫卵保有を含む）をいう。

就学援助の状況（過去3ヵ年の推移）

（単位：人・千円）

年度 区分		平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校	対象人数	121	117	127
	援助総額	7,872	7,843	8,882
中学校	対象人数	94	78	77
	援助総額	10,412	8,124	8,747
計	対象人数	215	195	204
	援助総額	18,284	15,967	17,629

2 特別支援教育就学奨励費

小学校及び中学校の特別支援学級に在籍し、就学援助の対象とならない児童生徒の保護者に対し、経済的負担を軽減するため、就学奨励費を支給する。

内訳（平成28年度上限額）※今後、変更となる場合があります。

（単位：円）

区分		小学校	中学校
新入学児童生徒 学用品・通学用品購入費	1年	10,235	11,775
学用品・通学用品購入費		5,710	11,160
体育実技用具費 小1~3年、4~6年、中1~3年の 各期間に1回	スキー	13,010	18,670
	柔道		3,755
	剣道		25,970
校外活動等参加費（宿泊を伴う）		1,785	3,005
校外活動等参加費（宿泊を伴わない）		775	1,120
通学費		実費又は実費の1/2	実費又は実費の1/2
修学旅行費		10,590	28,335
学校給食費		実費の1/2	実費の1/2

特別支援教育就学奨励費の状況（過去3カ年の推移）

（単位：人・千円）

区分 \ 年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校	対象人数	11	11	7
	支給総額	413	389	225
中学校	対象人数	8	8	7
	支給総額	508	420	343
計	対象人数	19	19	14
	支給総額	921	809	568

3 特別支援学級等通学援助費

小学校及び中学校の特別支援学級・通級指導教室に通学する児童生徒の保護者に対し、その特殊事情にかんがみ、経済的負担を軽減するため、通学費の一部を支給する。

特別支援学級等通学援助費の状況（過去3カ年の推移）

（単位：人・千円）

区分 \ 年度		平成26年度	平成27年度	平成28年度
小学校	対象人数	42	45	46
	支給総額	234	253	241
中学校	対象人数	11	10	12
	支給総額	66	60	67
計	対象人数	53	55	48
	支給総額	300	313	308